

EmNido Report No. 0003 (2020.11.30)

ミャンマー総選挙 2020 ~ 結果とその背後にある不安 ~

本レポート作成にあたり可能な限り事実関係の確認を行ったが誤記の可能性があることをお許しいただきたい。

ミャンマーは2020年11月8日に総選挙の投票日を迎えた。前回の2015年総選挙でアウン・サン・スー・チー氏他民主化を求める人々が軍政を倒して大勝した。あれから5年間、スー・チー国家顧問率いる与党「国民民主連盟(NLD)」の政策実行力に疑問を持つ声もささやかれていたが、フタをあけてみれば、与党NLDが前回より議席数を増やす結果となった。今回の選挙結果と、その背後にある不安要素についてまとめる。

1. ミャンマー総選挙 2020

(1) 与党「国民民主連盟(NLD)」の大勝

2015年の総選挙でアウン・サン・スー・チー氏率いる「国民民主連盟(NLD)」が軍政を倒し、同国に民主化をもたらした。そして任期の5年間が経過し、2020年11月8日に投票日をむかえた。今回の総選挙では上下両院計664議席中、改選対象の476議席が争われた。

NLDは、これまでの5年間の政策運営で、必ずしも目覚ましい成果をあげたとはいえないだろう。今回の選挙では投票日前にはNLDの劣勢がささやかれていた。しかしながら、開票が始まると少しずつ優勢であることが判明してきた。

スー・チー氏自身は11月10日に当選を確定した。そして、11月15日に確定した476全議席中、NLDは396議席(83%)を獲得した。一方、軍政の流れをくむ「連邦団結発展党(USDP)」は33議席の獲得にとどまった。

国民民主連盟(NLD)

National League for Democracy

2015年の総選挙で大勝し与党として政権を獲得した。アウン・サン・スー・チー氏が党首として率いる反軍事政権の最大政党。

連邦団結発展党(USDP)

Union Solidarity and Development Party

長らく続いた軍政の流れをくむ政党。2010年に行われた前々回の総選挙では圧倒的な議席数で与党の座を確保していた。

軍政時代のテイン・セイン元大統領が党首。

〔総選挙2020の結果(11月15日確定)〕

	上院	下院	合計	前回結果	増減数
定数	224	440	664	664	-
軍人議席数	56	110	166	166	-
民選議席数	168	330	498	498	-
治安上の理由で投票なし	7	15	22	7	-
改選議席数	161	315	476	491	- 15
NLD(国民民主連盟)	138	258	396	390	+ 6
USDP(連邦団結発展党)	7	26	33	41	- 8
その他野党計	16	31	47	60	- 13

(2) 最大野党「連邦団結発展党 (USDP)」の反論

軍政の流れをくむ「連邦団結発展党 (USDP)」はわずか 33 議席の獲得と、41 議席獲得の前回 2015 年総選挙を下回る結果と大敗を喫した。

その USDP は、開票が進み敗色が濃くなってきた 11 月 11 日に記者会見を開き、「国軍の協力のもとで総選挙をやり直すべきだ」との声明を出した。

さらに全議席が確定した後の 11 月 26 日に、再度記者会見を行い、「NLD が大勝したとい選挙結果は受け入れない」という考えを改めて示した。

キン・イー副党首はこの会見で、「選挙管理委員会は準備段階から欠陥が多く、自由で公正な選挙ではなかった。公正な選挙なら結果は違ったはず」と選挙不正の証拠とする多くの写真を展示しながら主張した。

ただ、このときは選挙のやり直しを求めることはなく、11 月 11 日の会見での発言については「党全体の立場を代表していない」として発言を修正した。

2015 年総選挙では、野党であった NLD が選挙の中立性について疑問の声をあげていたのだが、与党として実施した今回の選挙では選挙管理委員の任命や中立性を配慮した形跡はなかったとして詰め寄られる状況になっていた。

選挙結果への国軍の見解

国軍のミン・アウン・フライン最高指揮官は 11 月 8 日の投票時、現地メディアに対して「結果が国民の希望にかなうならば受け入れる」と話していたようだ。

1990 年の総選挙では、NLD の圧勝を当時の軍政が受け入れず、スー・チャー氏の自宅軟禁を続けたという過去がある。

スー・チャー氏と国軍

ミャンマーの国軍の源流は「独立の英雄」と呼ばれるアウン・サン将軍が第二次世界大戦中に指揮した武装組織である。

2. スー・チャー氏率いる NLD の求心力の低下

(1) NLD 政権への不安

前政権与党の NLD は、今回の総選挙は勝ったものの、その運営能力に疑問がもたれはじめている。NLD からの支持者離れの背景には以下のようなことがあると推測される。

1. NLD 政権下で閣僚の汚職が相次いだ。2018 年 5 月、チョー・ウイン計画・財務相 (当時) が汚職の嫌疑で辞任した。また、2019 年 7 月下旬には、国営企業の調達を巡って汚職に手を染めたという疑惑でキン・マウン・チョー工業相が辞任している。
2. 少数民族との和平交渉が停滞している。またロヒンギャ問題も 2 年たっても膠着状態が続いている。
3. 経済成長率が軍政時代より 1% 近く下落し、国民の間では経済停滞の不満が募っている。

(2) 民主化運動同志たちの離反

ミャンマーの民主化運動の中心的な存在であり、象徴でもあるアウン・サン・スー・チャー氏だったが、2015 年総選挙で政権を獲得した後の動きに軽快さを欠き、スー・チャー支持者たちの間でも少しずつ離れていく人たちがでてきた。

NLD でスー・チャー氏を支えてきた、女性実業家で下院議員でもあるテ・テ・カイン氏は NLD を離れ「人民先駆者党(PPP: People's Pioneer Party)」を創設し今回の総選挙に立候補した。

そのテ・テ・カイン氏は、NLD 執行部を「NLD の意思決定が民主的ではなく国民の声を代弁していない」と、そしてスー・チャー氏のことを「全てを自分で支配しないと気がすまない人だ」と批判している。

また、若者の声を代弁する市民団体「ヤンゴン・ユース・ネットワーク」の幹部として、長らくスー・チャー氏と共闘してきたゼイ・リン・モン氏は、「NLD は意見の異なる人々のけに耳を傾けようとはしない」と NLD に対して失望したとの声をあげている。

軍政時代に学生デモを主導した“88 世代”のひとりコー・コー・ジー氏は約 30 年間にわたり民主化運動でスー・チャー氏と歩みをともしてきたが、NLD による政権運営では進展は見られないとして 2018 年に NLD を離れ、新党「人民党(PP: The People's Party)」を設立した。“88 世代”から 100 人近い人数がこの新党に参加したようだ。そして、今回の総選挙はこの新党から出馬した。

軍人出身だが NLD の党幹部としてスー・チャー氏を支え 2010 年の総選挙では NLD から出馬し当選していたトゥラ・シュエ・マン(Shwe Mann) 元下院議員は「連邦改善党(UBS: Union Betterment Party)」を結成し、自身は出馬しなかったが野党として候補者をたてた。

これらの元同志たちは今回の総選挙では議席を確保することはできなかった。

(参考) ミャンマー連邦議会と選挙制度

ミャンマーの連邦議会は上院と下院の二院で構成される。上下院は、その選出方法は異なるが、任期や役割は同じだ。そのため選挙結果である獲得議席は両院の合計で示されることが多い。

民族代表院である上院(Amyotha Hluttaw) は、地域や少数民族などを代表するため全国の 14 の地域・州それぞれに 12 議席、つまり合計 168 の小選挙区が割り当てられている。

また、国民代表院としての下院(Pyithu Hluttaw) は全国を 330 の小選挙区に分けている。結果、全国で 498 の小選挙区で選挙が行われることになっている。

ただし、上院・下院ともに定数の 4 分の 1 を軍人枠に割り当てるよう憲法で定められているため、実質選挙によって選ばれるのは上院で 168、下位で 330 の計 498 議席となっている。任期はともに 5 年間。

テ・テ・カイン
(Thet Thet Khine)
1967 年 8 月 19 日生まれ

ゼイ・リン・モン
(Zay Linn Mon)
生年月日は不明: 2020 年 9 月 2 日時点で 23 歳

市民団体「ヤンゴン・ユース・ネットワーク(Yangon Youth Network)」の代表

コー・コー・ジー
(Ko Ko Gyi)
1961 年 12 月 18 日生まれ

88 世代にひとりとして、約 30 年にわたりスー・チャー氏と民主化運動の歩みをともしてきた。学生のリーダー的存在で、2015 年の選挙では NLD への投票を呼び掛けていた。

トゥラ・シュエ・マン
(Thura Shew Mann)
1947 年 7 月 11 日生まれ

「88 世代」

民主化の同志を指す。1988 年、当時の学生が民主化を求め独裁政権を退陣に追い込むデモを主導。アウン・サン・スー・チャー氏に民主化運動への参加を促した。

【ミャンマー連邦議会の議席数】

	上 院	下 院	合 計
	Amyotha Hluttaw	Pyithu Hluttaw	
定数(合計議席数)	224	440	664
軍人議席数	56	110	166
民選議席数	168	330	498

軍人枠と憲法改正

憲法の重要規定の改正には連邦議会議員の 4 分の 3 を超える賛成と国民投票で全有権者数の過半数の賛成が必要となっている。

一方、現在の連邦議会は上院、下院ともにその議席の 4 分の 1 が軍人枠となっているため、国軍の同意がない限り憲法改正はできないということになっている。

付録 . ミャンマー総選挙 2020 結果詳細

〔ミャンマー総選挙 2020 の結果 (連邦議会議席数)〕

政党名	略称	日本語訳	上院	下院	合計
National League for Democracy	NLD	国民民主連盟	138	258	396
Military appointees		軍人議席	56	110	166
Union Solidarity and Development Party	USDP	連結団結発展党	7	26	33
Arakan National Party	ANP	ヤカイン民族党	4	4	8
Mon Unity Party (*1)	MUP	モン統一党	3	2	5
Kayah State Democratic Party	KySDP	カヤー州民主党	3	2	5
Shan Nationalities League for Democracy	SNDP	シャン民族民主連盟	2	13	15
Ta'ang (Palaung) National Party	TPNP	タアン (パラウン) 民族党	2	3	5
Pa-O National Organization	PNO	パオ民族機構	1	3	4
New Democracy Party (Kachin)		新民主党	1		1
Kachin State People's Party (*2)	KSPPP	カチン州人民党		1	1
Arakan Front Party	AFP	ヤカイン前衛党		1	1
Wa National Party (*3)		ワ民族党		1	1
Zomi Congress for Democracy	ZCD	ゾミ民主議会		1	1
Left Vacant			7	15	22
TOTAL			224	440	664

注) 政党名の日本語訳は一部本レポート独自のものも含まれている。

注)

- *1: 前身はモン民族党
- *2: 前身はカチン州民主党
- *3: 前身はワ民族党

(出典) 2020 年ミャンマー総選挙 選挙結果速報 (2020 年 11 月) (日本貿易振興機構・アジア経済研究所)

〔参考情報〕

- [1] NLD dominates Myanmar's new parliament (The Myanmar Times 16 Nov 2020)
<https://www.mmtimes.com/news/nld-dominates-myanmars-new-parliament.html>
- [2] 2020 年ミャンマー総選挙 選挙結果速報 (2020 年 11 月) (日本貿易振興機構・アジア経済研究所)
https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Eyes/2020/ISQ202020_036.html
- [3] Myanmar Elections (MIMU Myanmar Information Management Unit)
<http://themimu.info/election>

2010 年の選挙で勝利しながら当時の軍政によりその結果を一方向的に無きものにされたスー・チー氏率いる NLD が 2015 年にようやく政権獲得することができた。その背景には多くの支持者たち支援者たちがいた。そして政権与党として 5 年が経過して迎えた今回の選挙。結果は引き続き政権運営を任された。

ミャンマーの国民は、ようやく手に入れた民主政権にもう少しの時間的猶予を与えたようだ。これまでの 5 年間で実行できなかった数多くのことを、NLD は実行していけるのか。アウン・サン・スー・チー氏の求心力に陰りが見え始めていいる中で踏ん張りを見せることができるか試される 5 年間となる。

2020 年 11 月 30 日
 株式会社 エムニド
 仁藤 誠人